

## J Report

Spring  
2024  
Vol.7JR Tokyo general hospital  
Seasonal Magazine

小岩井農場の一本桜（岩手県雫石町）

## Medical Topics

J R 東京総合病院  
産婦人科  
部長  
北條 智

## 無痛分娩をおこなっています

 当院でのお産について

新しい家族が増えることは楽しみである一方、ご不安を抱くこともあると思います。皆さまが安心して妊娠期間を過ごし、出産を迎えることができるよう産婦人科スタッフ一同でサポートしています。当院では、陣痛開始から出産後の回復までの時間を一つの個室で過ごすことができるLDR室（※）をご用意しています。LDR室では、上のお子さまも含めたご家族立ち会いのもとで赤ちゃんを迎えることができます。また、来年春には、新病棟でお産をすることができるようになります。

※LDRとは、陣痛(Labor)、分娩(Delivery)、回復(Recovery)を略した言葉です。

一般に出産は痛みを伴うものですが、できる限り楽にお産したいというご要望がある中、その痛みを軽減することを目的として昨秋に無痛分娩を導入しました。無痛分娩は、一般に「硬膜外鎮痛法」といわれる下半身の痛みだけをとる方法で行われます。麻酔を行う際の痛みは強くありません。妊婦さんは通常と変わらずベッドに横になり、陣痛時も通常の呼吸状態を保つことができ、赤ちゃんに大きなストレスを与えることはありません。さらに、妊婦さんの体力は温存され産後の回復が早くなるといった利点があります。無痛分娩を専門とする麻酔科医師、助産師とともにチーム一丸となり、安心、安全を第一に出産できる体制を整えています。

みなさまそれぞれのご希望に沿った分娩をともに考えてまいりますので、お気軽にご相談ください。お産のあとのサポートをする産後ケア入院も行っています。詳しくは当院ホームページをご覧ください。



新病棟の病室（個室）のイメージ

## 血液のがん

血液・腫瘍内科では、貧血などの一般的な病気から、血液の悪性腫瘍（がん）まで、広範囲に診療しています。血液のがんとして、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などが代表的で不治の病の印象がありますが、以前とは異なり、緩解に至るケースも少なくありません。また、従来の、長期間の入院や副作用が強い治療から、効果的で副作用が少ない治療が行えるようになりました。



## 急性骨髄性白血病に対する新たな治療法

急性骨髄性白血病は血液のがんの代表的な疾患ですが、以前は高齢者に対する標準的な治療はありませんでした。しかし、新しい薬剤であるアザシチジンとベネトクラクス（いずれも一般名）が登場し、高齢者でも治療でき、さらに、従来と異なり、病気の状態や、副作用の程度により外来通院が可能となりました。その理由は、従来の抗がん剤は細胞を分裂させなくして、細胞が増えないようにする薬であり、そのためがん細胞だけでなく、造血細胞や毛根の細胞にも効いてしまい、副作用が出ていました。一方、アザシチジンは白血病細胞を増やしてしまう遺伝子異常を修正する働きにより、ベネトクラクスは白血病細胞を不死身にしてしまう蛋白質を阻害することにより、白血病細胞の増殖と生存を抑制します。白血病細胞を標的とした治療であることから、副作用は比較的少ないです。その他の疾患についても、治療法の進歩が見られ、悪性リンパ腫では再発後の治療の選択肢が増え、多発性骨髄腫では免疫を利用した抗体薬の登場により、生活の質を保ちながらより長く生きられるようになりました。

## 病気・治療とうまく付き合う

しかし、すべてがよいわけではありません。副作用は減りましたが、まだ存在します。また、新しい治療法では病気が悪化しないように、長期間にわたり治療を継続することが多くあります。当院では、治療を続けやすいように、患者さまのお話を伺い、丁寧にご説明することにより、安心して治療を受けていただけるよう、工夫して診療を行っております。

血液・腫瘍内科 医長 奥田慎也

## 外来抗がん剤治療における薬剤師の関わりについて

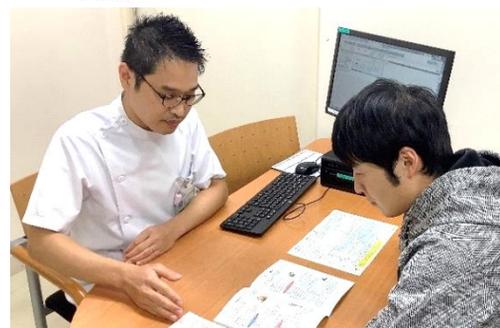
薬剤師は、悪性腫瘍の治療において、薬の観点からトータルで患者さまをサポートしています。血液のがんに限らず、肺がんや大腸がんなどにおいても抗がん剤が用いられます。新しい抗がん剤が次々と開発され、薬剤の選択肢も広がってきましたが、抗がん剤との付き合いが長くなってしまうこともあります。少なからず出てきてしまう副作用を軽減するため、薬剤師は、患者さまが生活の質を落とさずに治療が続けられるよう、治療薬や副作用予防のための生活の工夫などを提案しています。

当院では医師の診察前に専門の薬剤師が面談し（薬剤師外来）、副作用の状況やお薬の飲み方を確認することで、医師との連携を図っています。

また、試験運用段階ですが、スマートフォンアプリによる副作用管理を導入し、日々の体調管理や心配事の相談をしやすい体制を整えています。

薬剤師は、よりよい相談相手、よりよいサポーターとなれるよう心がけています。お気軽にご相談ください。

薬剤部 化学療法担当薬剤師



薬剤部マスコット

くすりん